TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　516語

Why the Hoofs of the Deer are Split

シカのひづめはなぜわれている

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Raybrite

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　人々を見守るやさしい精マニトは、ある日森でいやな音を聞きます。大きな岩のそばでは、ひとりの男がナイフをといでいて……。

The manito of the Indians taught them how to do many things. He told them how to build wigwams, and how to hunt and to fish. He showed them how to make jars in which to keep food and water. When little children came to be with them, it was the manito who said, "See, this is the way to make soft, warm cradles for the babies."

The good spirit often comes down from his happy home in the sky to watch the Indians at their work. When each man does as well as he can, the manito is pleased, but if an Indian is lazy or wicked, the spirit is angry, and the Indian is always punished in one way or another.

One day when the manito was walking in the forest, he said to himself, "Everything is good and happy. The green leaves are whispering merrily together, the waves are lapping on the shore and laughing, the squirrels are chattering and laying up their food for winter. Everything loves me, and the colors of the flowers are brighter when I lay my hand upon them."

Then the manito heard a strange sound. "I have not often heard that," said he. "I do not like it. Some one in the forest has wicked thoughts in his heart."

Beside a great rock he saw a man with a knife.

"What are you doing with the knife?" asked the manito.

"I am throwing it away," answered the man.

"Tell me the truth," said the manito.

"I am sharpening it," replied the man.

"That is strange," said the manito, "You have food in your wigwam. Why should you sharpen a knife?"

The man could not help telling the truth to the manito, and so he answered, but greatly against his will, "I am sharpening the knife to kill the wicked animals."

"Which animal is wicked?" asked the manito. "Which one does you harm?"



THE KNIFE ONLY WENT IN DEEPER

"Not one does me harm," said the man, "but I do not like them. I will make them afraid of me, and I will kill them."

"You are a cruel, wicked man," said the manito. "The animals have done you no harm, and you do not need them for food. You shall no longer be a man. You shall be a deer, and be afraid of every man in the forest."

The knife fell from the man's hand and struck his foot. He leaped and stamped, but the knife only went in deeper. He cried aloud, but his voice sounded strange. His hands were no longer hands, but feet. Antlers grew from his head, and his

whole body was not that of a man, but that of a deer. He runs in the forest as he will, but whenever he sees a man, he is afraid. His hoofs are split because the knife that he had made so sharp fell upon his foot when he was a man; and whenever he looks at them, he has to remember that it was his own wickedness which made him a deer.

アメリカせんじゅうみんのマニトは、せんじゅうみんたちにいろいろなことのやり方を教えてくれました。ウィグワムという家のたて方や、かりや魚つりのしかたを教えてくれました。食べものや水を入れておくつぼのつくり方も見せてくれました。小さな子どもたちが生まれたときにも、「ごらん、赤ちゃんのためのやわらかくてあたたかいゆりかごは、こうやってつくるのだよ」と教えてくれたのは、マニトでした。

このよいせいれいは、空の上のしあわせなおうちからよくおりてきて、せんじゅうみんたちがはたらくのをながめます。みんながせいいっぱいがんばっていると、マニトはよろこびます。でも、なまけたりわるいことをしたりする人がいると、マニトはおこり、その人はいつも何かのかたちでばつをうけるのです。

ある日、マニトは森を歩きながらひとりごとを言いました。「何もかもがよくて、しあわせそうだ。緑の木の葉は楽しそうにささやきあい、波は岸に打ちよせてわらい、リスたちはおしゃべりしながら冬のための食べものをたくわえている。何もかもがわたしを大すきで、わたしが手をふれると、花の色はいっそう明るくなる。」

そのとき、マニトはへんな音を聞きました。「あんな音はめったに聞いたことがない」とマニトは言いました。「いやな音だ。森のだれかが、心の中にわるい考えをもっている。」

大きな岩のそばに、ナイフをもった男がいるのが見えました。

「そのナイフで何をしているのだね？」とマニトはききました。

「すてようとしているんです」と男は答えました。

「ほんとうのことを言いなさい」とマニトは言いました。

「といでいるんです」と男は答えました。

「それはへんだな」とマニトは言いました。「おまえのテントには食べものがあるではないか。どうしてナイフをとぐ必要があるのだね？」

男はマニトにはほんとうのことを言わずにいられなかったので、いやいやながら答えました。「わるい動物たちをやっつけるために、ナイフをといでいるんです。」

「どの動物がわるいのだね？」とマニトはききました。「どの動物が、おまえにわるさをするのだね？」

ナイフはますます深くささるばかりでした

「わたしにわるさをする動物なんていません」と男は言いました。「でも、動物がきらいなんです。動物たちがわたしをこわがるようにして、やっつけてやるんです。

「おまえはひどい、わるい男だ」とマニトは言いました。「動物たちはおまえに何もわるさをしていないし、おまえは食べものにこまってもいない。おまえはもう人間ではなくなる。シカになって、森の中で人間をみんなこわがるがいい。」

ナイフが男の手から落ちて、足にささりました。男ははねたり足をふみならしたりしましたが、ナイフはますます深くささるばかりでした。男は大声でさけびましたが、その声はへんなひびきでした。手はもう手で

はなく、足になっていました。頭からはつのが生え、体じゅうが人間ではなく、シカの体になっていました。シカは森の中をすきなように走り回りますが、人間を見るといつもこわがります。シカのひづめがわれているのは、人間だったときに自分でするどくといだナイフが足の上に落ちたからです。そして、ひづめを見るたびに、自分をシカにしたのは自分自身のわるい心だったことを思い出さなければならないのです。

たんご と クイズ　シカのひづめはなぜわれている

wigwams 先住民の伝統的な家	**jars** つぼ	**cradles** ゆりかご
squirrels リス	**rock** 岩	**knife** ナイフ
deer シカ	**hoofs** ひづめ	

Q1 男(おとこ)は何(なに)のためにナイフをといでいた？

① 魚(さかな)をさばくため　② 動物(どうぶつ)たちをやっつけるため　③ 木(き)をけずるため

Q2 マニトは男(おとこ)を何(なに)にかえた？

① シカ　② クマ　③ オオカミ

Q3 シカのひづめがわれているのはどうして？

① 岩(いわ)の上(うえ)を走(はし)ったから　② クマにかまれたから　③ 自分(じぶん)でといだナイフが足(あし)に落(お)ちたから

こたえ

Q1 ② 男(おとこ)は、わるさもしていない動物(どうぶつ)たちをこわがらせてやっつけようと、ナイフをといでいたのです。

Q2 ① マニトは「シカになって、森(もり)の中(なか)で人間(にんげん)をみんなこわがるがいい」と言(い)い、男(おとこ)はシカになりました。

Q3 ③ 人間(にんげん)だったときに、自分(じぶん)でするどくといだナイフが足(あし)の上(うえ)に落(お)ちたので、ひづめがわれているのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Raybrite（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。